

総合計画審議会 会議録

会議名	第3回 いなべ市総合計画審議会
開催日時	平成26年12月5日(金) 13:30~15:30
開催場所	いなべ市員弁コミュニティプラザ2階 集会室
出席者	【委員】15名(欠席:美濃部昌利、位田とよ子、出口真輔、西川良香) 丸山康人、中澤政直、小澤和茂、門脇よし系、多湖節男、畑中美奈子、水野章、小林久里子、伊藤久子、伊藤一人、伊藤和雄、川瀬正幸、近藤勝敏、種村浩人、永井澄美 【事務局等】15名 いなべ市:副市長、総務部長、都市整備部長、市民部長、福祉部長、企画部長、教育部長、水道部長、建設部長、農林商工部長、健康こども部長、政策課長兼財政課長、及び政策課職員3名 【オブザーバー】1名
会議次第	1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 前回会議の追加説明 ① 第1次総合計画未達成理由について【資料1】 ② まちづくり事業所アンケート調査の報告について【資料2】【資料2 参考資料】 4. 審議 まちづくりの主な課題について 5. 次回の会議について 6. 閉会
配布資料	【資料1】第1次いなべ市総合計画未達成となった指標について 【資料2】第2次いなべ市総合計画策定のためのまちづくり市民満足度調査報告のまとめ(事業所調査)について 【資料2 参考資料】第2次いなべ市総合計画策定のためのまちづくり市民満足度調査報告書(事業所調査)
公開、非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	0人
議 事 概 要	
<p>1. 開会</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>3. 説明事項 【会長】 本日は、前回の審議会において、1次計画で達成できなかった項目の理由の検証をお願いしていたので発表していただく。それから事業所調査の結果報告をしてもらう。そして最後に前回報告されたまちづくりの課題について、皆さんが感じることにについてご意見をいただく。 では、前回会議の追加説明の、①第1次総合計画未達成理由について、事務局に説明をお願いする。</p>	

【説明者】

【資料1】第1次いなべ市総合計画未達成となった指標について説明。

【会長】

前回の未達成項目について詳しくご説明をいただいた。今の説明に対して意見や質問があればお願いしたい。

【副会長】

質問ではないが、未達成理由を見ていると、幾つかのパターンが見えてくると思う。

1つ目は、指標設定時から現在の状況が変わっており、指標が陳腐化しているもの。

2つ目は、同じく指標設定時から現在の状況が変わっており、達成が不可能となっているもの。

3つ目は努力が足りないというもの。

これらの理由をもとに、次回に適切な指標設定ができるよう、今回の検証結果を反映してほしい。

【会長】

副会長のご意見の通り、次回の指標設定の際に生かしてほしい。では、次の②まちづくり事業所アンケート調査の報告について、説明をお願いする。

【事務局】

【資料2】第2次いなべ市総合計画策定のためのまちづくり市民満足度調査報告のまとめ（事業所調査）について説明。

【会長】

これで今回の全ての調査結果がそろったことになる。これまでの一般調査、中学生調査と合わせて、おおよその傾向はつかめたと思う。次回は素案を提出してもらうことになるが、その際にはこれらの結果を検証の材料にしてもらえればと思う。

ご意見が無ければ、前回提示されたまちづくりの課題についてご意見をいただきたい。

前回の会議資料になるが、市の特性、現状、アンケート結果、社会潮流などを背景に、課題が6項目提示されている。これをたたき台として詰めていきたい。

では、ご意見をいただく前に、前回のおさらいとして、事務局に概要説明をお願いする。

【事務局】

第2回総合計画審議会の【資料4、まちづくりの主な課題】についての概要説明。

【会長】

この内容について、新たな視点の追加や表現方法へのご意見などをお願いしたい。

【委員】

母親世代で、子育てが落ち着いた人たちの力が発揮できるよう支援できればと思う。私の知人でも、教員免許を取得したり、無農薬農法を学んだり、エステが好きで仕事を始めた方などもいる。子育て中はそれだけで精一杯だが、その後は活躍できる女性も多いと思うので、女性向けの就労セミナーなどの開催や、意欲のある人たちにそのことをお知らせできるような仕組みがあればよいと思う。

【会長】

現在、国でも20代、30代の人に地元に残ってもらうことを重要視しており、こういった視点も含めたまちづくりが必要になっている。市民が主役のまちづくりにおいては、女性の力は重要である。女性が働く場の創出や情報提供の充実は大切である。

【委員】

未達成の項目について説明があったが、その中で高齢者対策、女性の就労、赤ちゃん含めた子どもや子育てへの支援は特に必要である。インフラ整備や産業関係については政治的な面もあると思うので、ニーズに合わせて行政が考えてくれれば良いと思うが、先程の3点は必ずやらなければならない。

子どもを産むことについては、小児科の常勤やドクターの確保をなんとかできないか。いなべ総合病院の医師といえば名古屋大学から、桑名は三重大学から、ということがいつまでも続くのか。学閥ではなく、この地でやりたいというドクターを見つけて連れてこなければならない。大学も人が余っているわけではないので、今後は病院独自の採用も認められてくると思う。いなべ出身の医師を連れ戻すなど、様々な方法で確保策を考えていく。また、地元で開業している医師のご子息や、現在の医師についても定年以降も活躍できると思うので、そういう方々の力を貸していただくなど、人材を確保していきたい。

もう一つは女性の問題である。人口が減っていく中で女性の力が重要になってくる。医師も3割が女性である。子育てからの復帰の仕組みを考え、復帰する方を増やしていく必要がある。女性も仕事をやりがいの1つとして考えてくれればと思う。子どもを預かれる環境整備や、病児保育のニーズはもっと高いと思うので、周知も必要である。

最後に高齢者の生きがいについては、雇用が必要だと思う。今後、高齢者は大きな労働力となる。シルバー人材センターで約800人が活躍していらっしゃるようだが、ポイント制度の導入などを考え、力のある方にもっと参加してもらえるシステムを検討していくべきである。特に、ものづくりなどは生きがいにつながりやすいと思うので、力を発揮していただくために、ものづくりの視点の検討も有効だと思う。

【会長】

ありがとうございます。高齢者、女性、子どもの仕組みの検討について、ご意見をいただいた。

三重県は医師や看護師の数が少なく、厳しい状況である。病院だけにお任せするのではなく、地域が一体となって取り組んでいく必要がある。

【委員】

資料1の5頁について、働く女性にとっては病児保育が必要だと思う。病児保育はファミサポでは無理だと思うが、病児と病後児のあたりが、わかりにくいので教えていただきたい。

【説明者】

おっしゃるとおり、病児と病後児は明確に分かれている。病児は病気で集団生活ができない場合で、病院や開業医などに併設するもので、設置のハードルが高い。病後児はファミサポで看護師の資格を持つ方に研修をしており、受け入れ体制は確保しているので、今後は利用者とのマッチングが必要である。

【副会長】

前回の会議資料【資料4、まちづくりの主な課題】13頁(4)の課題について、それぞれ掲載されているが、例えば「③まちの魅力の向上」については、「①少子高齢化への対応」「②安心・安全の確保」「④都市拠点の創造とネットワーク化の推進」「⑤環境保全への取り組み」などを解決することで達成できるものになる。

現在は並列になっているが、このあたりの整理をすれば、よりわかりやすい内容になるので検討してほしい。

また、文章で「魅力づくりに努める」「少子化の向上に努める」などの表現は消極的に感じるので、積極的な表現に修正してほしい。

【委員】

高齢の女性はすごくパワーがある。声をかければ動いてくれる。高齢の女性がうまく参加できるような機会をつくってもらえればと思う。女性の力は本当にすごく大きいと思うので、上

手に使って下さい。是非声をかけて下さい。

【委員】

教育現場でも、親子さんが非常に変わってきている。まちの魅力を向上させ、こういうまちに住みたい、とっていただけるようにしていく必要がある。いなべでは、自分の子どもだけでなく、地域みんなが子育ての問題を解決してくれるというようになればよい。

他にも、凶悪犯罪はいなべでは起きていないので、郷土の皆さんの気持ちがそういった部分に表れているのかなと思う。まあ、ひきこもりの人について、プライバシー問題があり、助けてあげたいが実現していかないので、解決できるようにしていきたい。

いなべ市は、現在も十分にやっていただいているが、そんなまちづくりになっていったらよいと思う。

【会長】

地域で子どもを見守る、地域で子どもを育てていく、いなべの伝統を残していくということを大事にしていきたいと思う。

【委員】

最近、火事で大きな家が全焼したことがあった。7～8人の家族だったが、2人の所在がわからず大変だった。親子も疎遠とまではいかないが、コミュニケーションが少ない。コミュニケーションをとってもらいたい。

もう一点は、住みたいまちにしてほしいということ。通勤、通学だけでなく、買い物などについても検討してほしい。北勢線は、どのくらいの利用があり、どういう状況なのか。今すぐにわからなければ次回でもよいが、教えていただきたい。

【説明者】

北勢線は平成 15 年から桑名市、東員町、いなべ市で支援を続けている。平成 20 年のリーマンショックで一時期は減少したが、おかげさまで年々乗客は増えており、平成 25 年には 240 万人となっている。試算では年間 300 万人くらいの利用がないと独立できないので、もう少し支援が必要な状況である。

【会長】

他にご意見はなければ本日はこれで終わりたいと思う。

今後、一人住まいの方が増えるのは間違いない。見守りなどは行政の方でもずいぶん取り組んでいると思うが、地域包括ケアシステムの中に巡回型の視点なども必要になってくるだろう。今すぐでなくてもいいが、将来的にどう展開するのか注目していきたい。

今日の意見をふまえて、事務局で素案を検討いただきたい。次回には素案が出てくるので、また皆さんに検討をお願いする。

5. 次回の会議について

【事務局】

今回は、平成 27 年 1 月 22 日（木曜日）13 時 30 分から同じ会場で開催する。

1 月、2 月の審議会では基本構想の素案の審議をお願いし、3 月には基本構想の承認をいただきたいと考えている。

6. 閉会

その他事項